

## 2017年度 第二部商経学科ゼミ募集要項

内田ゼミ	
基本テーマ	<b>みんなと未来学をやりませんか</b> 将来、こんな世の中になってほしいな」をキーワードに、個人の生活や企業・産業、あるいは地域や社会が「将来こうなってほしいな」という未来の姿を自由に想像し、「どうしたらそうなるのか」を、学生のみなさんが議論し、考えていくゼミです。
ゼミ運営方法	既存の仕組みや社会のあり方が大きな曲がり角を迎え、新しい発想で未来の姿をデザインしていくニーズが高まっています。 このゼミでは、学生のみなさんが自由に発想し、理想を語り、どうすればその理想に近づくことができるのかをみんなで議論し、考えていきます。みんなでワイワイ喋り、話し合いながら自分たちの考えを深めていくというのが基本的なゼミ運営方針です。 学生のみなさんが自由に発想したアイデア（テーマ）について、さまざまな視点からみんなで議論をし、実現に近づぐために何が必要かを発見し、何をどうすればいいのかについてのアイデアを出し合い、そのアイデアを高めていくというのが、ゼミ活動の中心となります。 特別な知識は必要ありません。テーマや実現策のアイデアを発想し、議論する過程で、みんなで文献や資料などをいろいろ調べていき、1人が調べた情報をみんなで共有しながら、また議論を続けていきます。 アイデア（テーマ）の選定は、学生が話し合っています。ゼミの人数によっては、いくつかのグループに分かれて活動することもあるでしょう。その場合は、それぞれのグループが別のグループに対して、自分たちが取り組んでいる議論の内容を紹介する機会を設け、お互いの参考にしていきます。アイデアの実現に近づぐための方策を最終的にまとめたら、その内容をレジュメにまとめ、他のゼミ生に発表します。
就職指導の方針	企業での経験をもとに、進路選択や就職活動のあらゆる場面で幅広くみなさんの相談相手になり、親身な指導を行います。
卒論の要件	テーマは、基本テーマに沿っていれば自由です。演習Ⅰ・Ⅱのゼミ活動で掘り下げて研究したテーマを卒論のテーマにしてもよいですし、卒論用に新しくテーマを設定しても構いません。グループで1つのテーマを設定し、共同執筆することも可です。分量はA4で10ページ以上（図表、イラスト等を含む）を目安としますが、テーマによってはこの目安に達しないことも考えられるため、その場合でも可とします。
学生への要望	ゼミ活動は、学生のみなさん自身が主体的に企画し、行動していくものです。1年半のゼミ活動が楽しく、面白いものになるかどうかは、学生のみなさん次第です。 研修旅行・合宿・学外調査活動などは、学生のみなさんが自主的に企画してください。指導教員はこうした活動をできる限り支援します。なお、これらの活動は自由参加です。演習・卒業研究の授業の成績には反映されません。
その他	ゼミ募集要項について、質問などがあれば、メールでの照会あるいは研究室（3号館411研究室）まで直接聞きに来て下さい。来室希望の人は、予めメールで日時の予約をしてもらえれば確実です。 メールアドレス：uchidam@k-kentan.ac.jp（uchida の後に m） 指導教員のプロフィールは、県短ホームページを参照して下さい。

岡田ゼミ	
基本テーマ	日本全体の人口減少と大都市圏への人口移動が進む中で、地方創生が喫緊の課題となっております。これから自分が就職して住む地域も、同様な問題を抱えていることが多いでしょう。しかし、そこに住み続けるためには、地域の問題を見つけ、解決策を探り、住みたいまちづくりを意識しながら、仕事をするのが重要であると考えます。このゼミでは「地域活性化」を基本テーマとし、常に原因を追求し、自ら発想する力をつけることを目指します。
ゼミ運営方法	演習Ⅰでは基本テーマに沿った関心のある文献を各自で見つけて発表し、皆で議論します。これを踏まえて、春休みには希望者でフィールドワークを実施して地域の実態と課題を調査し、その結果をもとに皆で議論して解決策を提案します。演習Ⅱでは各自のオリジナルな発想で卒業研究のテーマを決める作業を行います。卒業研究では各自が決定したテーマに沿って、地域調査をし、地域の問題点を見つけ、有効な解決策を考えます。
就職指導の方針	どのような職種を希望する場合でも、可能な範囲で相談にのります。
卒論の要件	基本テーマに沿っていれば何でも構いません。 12,000字以上を要件とします。
学生への要望	ルールを守ること。 協調性をもつこと。 ゼミの時間は前向きに思考すること。
その他	興味があれば研究室（3号館2階）を訪ねるか、見かけたときに声を掛けて下さい。 連絡先 okada@k-kentan.ac.jp

## 倉重ゼミ

基本テーマ	このゼミでは、「効率化」をキーワードとするコンピュータを用いた意思決定について学んでいきます。ここでのコンピュータを用いるとは、プログラミングを行ったり、エクセルをちょっと高度に利用してみたり、特殊なソフトを使うことです。皆さんも普段の生活の中で「もう少しこうしたら、こうなったら、もっと効率的になるのに」とか思ったことはありませんか？それをモデル化し、その解決方法を考えていきます。
ゼミ運営方法	演習ⅠとⅡでは、エクセルを利用したプログラミングやデータ解析、シミュレーションなどを学んでいきますが、それ以外にも人前で話すことや思考力を養う課題にも取り組んでもらいます。また、最初のうちは教員主体で行いますが、慣れてくれば学生主体での運営を考えています。 卒業研究では、基本的に自分が興味を持てるテーマで卒論を書いてもらいます。
就職指導の方針	私に”できる範囲内”でのお手伝いはさせていただきます。特に間接的な就活支援になります。SPの非言語処理問題やPC検定への質問・相談は歓迎します。また、面接練習用にビデオカメラなども準備しています。これらは希望する学生さんのみを対象にするもので、こちらから無理強いすることはありません。
卒論の要件	テーマなどは自由で、複数名で取り組むことも可能とします。分量に関しては、その内容によります。
学生への要望	少なくとも現段階でプログラミングなどコンピュータを扱うことに興味があること 経験はまったく問いません。 チームでの活動を基本とするので、最低限度の協調性は必要かと思えます。 後期開講予定の統計学は受講してください。
その他	このゼミは、以下のような人が向いている気がします。 将来、情報関連分野に就職を考えている人はもちろんですが、ワンランク上のエクセル使いを目指す人。 難関私立中学の算数の入試問題に対して、コーヒー片手に仲間と相談しながら楽しく取り組める人。時間がかかったり、解けなくてもかまいません。とにかく楽しめる人です。

## 宗田ゼミ

基本テーマ	【基本テーマ】鹿児島県内の中小企業を対象とした事例研究」 概要】鹿児島県内の中小企業を対象として経営分析を行います。 演習Ⅰ：簿記論Ⅰ相当の学修を前提として会計学・経営分析の基礎を学ぶ。 演習Ⅱ：事例研究の方法論について学ぶ。 卒業研究：演習ⅠおよびⅡにおける学修をもとに卒業論文の作成を目指します。
ゼミ運営方法	演習Ⅰでは、経営学の基礎、会計学の基礎、経営分析の先行研究のレビューを通じて、卒業研究で求められる研究の基礎能力を身につけていただきます。 演習Ⅱでは、事例研究の方法論について学びながら、簡単なケーススタディを繰り返します。 卒業研究では、演習Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎として卒業論文の作成に取り組みます。 なお、ゼミで共通の書籍を決めて輪読したり、自分で選んだ書籍等を基にしたレポート作成や資料作成なども行います。さらに、可能な限り、フィールドワーク（企業訪問等）も実施したいと考えています。 ゼミ運営の基本方針は以下の通りです。 勉強の方法を学ぶ、知識・技術の習得、交流と協調、よく遊び、よく学ぶ」
就職指導の方針	毎年お断りしているのは、履歴書やエントリーシートの代筆、面接等での替え玉受験です。これら以外は、皆さんからのリクエストに可能な限りお答えします。具体的には、エントリーシートの記入・履歴書作成時のアドバイス、模擬面接の練習相手などです。
卒論の要件	基本テーマに従って、卒業論文を作成していただきます。 字数制限は特にありません。詳細なテーマ等は過去の学生論集を参照してください。
学生への要望	私のゼミを希望する学生は、 <b>事前に研究室を訪問するなどして、私と直接話をしてください</b> 。希望者が多かった場合は、非訪問者からご遠慮いただく予定です。 現在の知識や技術ではなく、次のような学生の参加を望んでいます。 ・挨拶をしたり、時間を守ったりするなど、ルールやマナーを守ることができる学生。 ・勉強に限らず、自らの目標もしくは目的に向けて学生生活を送っている学生。 ・サークルや自治会活動、大学イベントなどに積極的にかかわれる学生。 ・ゼミに入った場合、私の担当する科目（財務会計論、コンピュータ会計など）を履修していただけると幸いです。強制はしませんが希望します。）
その他	【担当者自己PR】 担当者のプロフィール等に関しては、宗田健一会計研究室のホームページ（ <a href="http://sota.kbo.ac">http://sota.kbo.ac</a> ）で確認してください。 連絡先アドレス：sota@k-kentan.ac.jp 研究室訪問可能日時 現在の予定につき、会議等で不在の場合は再訪してください。この日時であれば、事前のアポイント無しで訪問していただいても結構です。） 6月23日（金）、ゼミ説明会終了後～21時頃 6月27日（火）、19時40分～21時30分頃 6月28日（水）、13時～16時、18時～19時30分 6月29日（木）、13時～17時 6月30日（金）、17時～20時

2017年度 第二部商経学科ゼミ募集要項

竹中ゼミ	
基本テーマ	<p>テーマとしては、「企業と人との良好な関係について考える」とします。                      企業と関わり合いを持って生活しなければいけない私たち。                      企業とつき合うなら、うまくつきあっていく方がよい。                      うまくつき合っていくために、知っておいた方がよいことは何か、考えてみましょう。                      当初は、テキストとして「即効マネジメント」(海老原嗣夫著)を取り上げるつもりですが、ゼミの当初の内容は、実際に参加するゼミのメンバーで、テーマについて一緒に確定するという話し合いを行っていきたくとも考えています。                      その際には、できるだけ参加する人が興味を持てるテーマを選んでいきたいと思っています。</p>
ゼミ運営方法	<p>ゼミは、基本的には学生が中心になって活動するものです。日頃のゼミは、与えられたテーマを分担して、決められた発表者が作成したレジメ(その日の発表内容をまとめたもの)を材料にして、みんなで議論するという方式でゼミを進めていきます。                      また、いろいろな事件や出来事が起これば、それについても議論をしていこうと考えています。                      ゼミ合宿や工場見学等はこれまであまり実施していませんが、皆さんの要望があれば考えていきます。</p>
就職指導の方針	<p>就職は皆さんにとっての大きなテーマです。できるだけサポートはしていきたいと考えています。履歴書作成や志望動機、自己PRなどどのように書けばよいかについては、アドバイスしてきました。また、具体的な求人情報は学生課にありますので、そこの連携も必要です。                      ただ、就職活動は精神的なタフさが要求されることもあり、就職活動に対する意欲がわからないなど、根本的な問題に直面することも多くあります。そのような場合、どのようにしたらいいか簡単に答えは出せないのですが、一緒に考えていくことができればよいと考えています。</p>
卒論の要件	<p>卒論については、特別な条件は設けませんが、字数については、目安としてA4用紙10枚程度が必要です。テーマについては、必ずしもゼミで取り上げたテーマでなくても構いません。自分で関心があるテーマが見つければ、それについてじっくりまとめてくれればOKです。2年生の演習2の時期に、相談しながらテーマや方法を決めていきたいと考えています。</p>
学生への要望	<p>ゼミは少人数で運営されるので、一人一人の発言や学生自身が作成するレジメが大切になってきます。そのためには、それぞれの人が何を考えているのか、言葉や文字にして他の人に伝えていくことが必要になります。また伝える方法にまだ慣れていなければ、それを練習していかなければ上手にはなれません。このようなことを理解してくれる学生を望みます。</p>
その他	<p>何かゼミについて質問があれば、takenaka@k-kentan.ac.jpまでメールで連絡、もしくは直接質問してください。</p>

福田ゼミ	
基本テーマ	<p>国際社会に生じる様々な事象(紛争、開発、市民社会論など)について、国際関係論的な視点から分析していきます。ニュースなどについて自分なりの意見をもてることを最終的な目標とします。                      同時に、自分たちが住む鹿児島県について自分たちの足で調べていることも大きな柱にしたいと思います。</p>
ゼミ運営方法	<p>演習1では、新聞の社説の読み比べをして、社会の様々な問題に対してどのような意見があるのかを見ていきたいと思えます。そしてその問題について議論したり、レポートを作成してもらいます。                      演習2では、国際関係論に関する基本的な文献の輪読をして、順番に報告してもらいます。同時に、順番を決めて毎週新聞記事についての報告をもらいます。演習2の途中から各自の興味のあるテーマについてまとめてもらいます。卒業研究では、各自の卒論のテーマについて報告してもらう予定です。</p> <p>課外活動(参加は任意で成績には関係ありません)                      昨年度は与論島にフェリーで行って、マンゴー農家さんや県庁の職員に対してアボカド栽培の魅力をプレゼンしてきました。                      また一昨までは、商店街グルメグランプリの枕崎チームのお手伝いに、枕崎、鹿児島アリーナ、国分に行ってきました。枕崎チームは準グランプリでした。                      今年もこうした課外活動を行いたいと思えます。</p>
就職指導の方針	<p>小手先の面接技術などを習得するよりも、学生時代にしかできない体験、他の人と違った経験をすることを勧めます。</p>
卒論の要件	<p>基本テーマに関するテーマについての卒業論文を執筆してもらいます。分量は、1万2千～1万5千字程度。</p>
学生への要望	<p>自分で考えて、自分で行動していくというタイプの積極的な方を歓迎します。                      遅刻や欠席などをしていないなど、あたりまえのことをあたりまえに行える学生を希望します。                      例年、福田ゼミには、一人で入ってくる学生がほとんどです。希望する学生は、怖がらずに一人で希望してください。逆に、「友達が入るから入る」という学生にはハードなゼミになるようです。</p>
その他	<p>何か質問があれば、fukuda@k-kentan.ac.jpまでご連絡ください。直接研究室に来てもらっても構いません。</p>

山口ゼミ	
基本テーマ	<p>日本経済の「失われた20年」を克服するために―若者が希望をもてる経済の仕組みを考える</p> <p>この20年というもの、日本ではずっと「改革」が終わらないブームとなっています。「痛み」に耐えなければ、既得権益を打破しなければ、「安倍規制」を突破しなければ、日本経済は再び成長することはできないと言われてきました。人間にたとえるなら、深刻な病気だから大手術をしなければならぬ」と手術をしても繰り返され続けるようなものです。それでもこの間、雇用者数は増加してきているにもかかわらず正規は大きく減少し、日本人の給与水準は20年前より減少しています。このような背景のせいかいまの20～30代の若者の多くは、進路選択の際にも就職してからもどこか閉塞感を抱えたまま過ごしてきました。</p> <p>このゼミでは、こうした現状をまずは冷静に分析し、その上でどのようにして克服できるのかを考えていきたいと思っています。</p> <p>方向性としては、「若者を育てる企業の取り組み」、「テクノロジーと社会」技術発展は社会を良い方向に変えていく、世界のなかの「ミレニアル世代」「ゼニアル世代」とは1980-2000年頃に生まれた世代で、世界的に環境や格差・貧困といった社会問題への関心が高い人が多く、その起業活動や社会活動が注目されている」といったものを中心に、ゼミ生の関心にしたがって決めていきます。</p>
ゼミ運営方法	<p>演習1では、日本経済の現状分析を中心に毎週文献の輪読を行います。</p> <p>演習2では、基本テーマのところで挙げたものを中心に方向性を決め、その分野の専門文献の輪読を行います。</p> <p>卒業研究では、各自自分のテーマを決めて研究を進め、研究報告を中心としたゼミ運営を行ないます。</p> <p>2年生の夏休みには卒論テーマを決めるための合宿などを行なう予定です。その他希望があれば調査旅行や企業見学なども企画します。</p> <p>ゼミ懇親会などの親睦企画は学生の希望に応じて実施します。</p>
就職指導の方針	<p>就職指導の実績がないので、わからないことは多いかもしれませんが。</p> <p>しかしもちろん相談には乗ります。私にわからないことであれば私自身他の人の助けを借りるなど、力になれるよう努力します。</p>
卒論の要件	<p>テーマは指導の中で相談して決めていきます。字数は12000字以上とします。</p>
学生への要望	<p>無断欠席をしないようにしてください。</p> <p>ゼミで行なう企画などには基本的に参加することが望ましいですが、金銭面その他不安がある場合は事前に相談してください。</p> <p>個性を大事にしてください。</p> <p>自分を大事にしてください。</p>
その他	<p>メールでの連絡はyam aguch@k-kentan.ac.jpまで。</p> <p>研究室は3号館2階です。</p>
山本ゼミ	
基本テーマ	<p>今年のゼミの研究テーマは、「観光行政」及び「地方分権改革」です。前半は「観光行政」について取り組みます。「観光客にとって、魅力的な都市は何か」という視点から、「都市ブランドの確立」、「R&amp;Sビタリティーの育成」等の観光振興のための施策について、実際の成功例を参考に検討していきます。後半は、「地方分権時代における地方行政」のあり方について検証します。最初に地方自治体の役割に関する基本的事項を学んだ上で、「フィールドワークを通じて「地方分権」はどうあるべきか、鹿児島島の未来像に関して考察していくことにします。</p>
ゼミ運営方法	<p>通常のゼミではテキストを使って担当者に順番に報告してもらい、それについて全員で議論する従来のゼミ形式を基本とします。それに加えて、「フィールドワーク」を実施します。また、学内開放等の本学の行事にはゼミ単位で参加します。ゼミ旅行(任意)は、海外(費用は20万円程度)あるいは国内(費用は6万円程度)に行く予定です。世界や日本の歴史・文化を学びます。</p>
就職指導の方針	<p>山本ゼミのOB、OGに就活体験記を話してもらうことを予定しています。学生からの要望があれば、面接指導を行います。</p>
卒論の要件	<p>卒論のテーマは自由ですが、1万5千字以上を条件とします。</p>
学生への要望	<p>まじめかつ素直で文句を言わず頑張れる学生、行事に積極的に参加できる学生が合っています。忙しいゼミがゼミが苦手な人はとらない方がいいかもしれません。なお、山本ゼミでは世界の料理を食べる食事会をします。世界の料理に興味がない学生は別のゼミをとってください。</p>
その他	<p>質問がある人は、yam am oto@k-kentan.ac.jpまでメールをください。</p>